



平原 貴さん
(札幌市在住)

東日本電信電話株式会社 (NTT東日本) 勤務
主に技術研究開発を担当。
また、国が行政のデジタル化を図るために実施するデジタル専門人材として地方自治体に赴き、地方創生をキーワードにデジタル活用化に向けた実証実験に携わっている。



浅利 圭一郎さん
(札幌市在住)

ハーモニクス《harmonics》 代表
出版社での雑誌編集・記者などを経て2007年よりフリーランスとして活動。2021年に現在の屋号を立ち上げ、社会的テーマのほか人物インタビューや街の話題等について、媒体を問わず企画編集、取材執筆を担当している。

Q 各々の会社・立場から見る『テレワーク』『ワーケーション』のイメージや進捗状況、周りの反応は？

A 積極的で明確な動きはある。『ワーケーションに求めているのは『適した環境』。』

(平)我々は通信の会社ですので、そういった会社の中で先にテレワークを推進していかないと世の中に普及していかないという意識があります。会社としては社員の家庭の事情等に合わせ、家に居ながら働ける環境になってきた実感はあります。次のステップとして、働く事に更なる選択肢を広げるため、点在している会社施設をサテライトオフィス化し利用する動きもありますし、民間のコワーキングスペースを社員が使えるよう、法人契約するなどの動きもあります。
ワーケーションについても会社は協力的に進めているところですよ。

(浅)大企業が率先して動き、魅せていくというのは世の中のトレンドの機運を高めていくので、今後も様々な分野で期待しています。私のような個人事業主は自由な反面、コスト的なものも全て賄う事になるので、各企業はそこと相談しながらやっているイメージです。またワーケーションをするという目標で町を選ぶのであれば、観光地として有名で観光資源が数多くあるというよりも、ワーケーションに適した環境が整っているかどうかを重視しています。

(平)そうですね。正直コワーキングスペースがあっても、料金形態や設備の面で使いにくかったりという事は意外とあるので、ハコモノとして整備するだけだといつか限界が来るのかなと思っています。これは私が言うのもどうかと思いますが、仕事ってやろうと思えばスマホやパソコン一つで、ハコモノが無くても出来てしまうので、その場所に誰が、どのように、どういう目的で来てもらうか、というような魅力づくりの方が大事なかなと思っています。

(浅)そうするとやはり、対象者と使用目的を明確にし、その対象者の「使いやすさ」の部分に目を向けていくことが重要になってくると思います。その利用者にとってニーズに沿った環境整備ができていけば、もちろん有効活用しますし、町としても、そのハコモノが継続的に生かされるといって形が構築できれば、WIN-WINの関係性が作られていくのではないかなと思います。



Q 新冠町に滞在して感じた町の強み・弱みは？

A 新冠にはまだまだ知られていない魅力が隠れている。管内で連携しながらいくべき。

(平)サラブレッドとレコードの町という印象は持っていました。滞在してみて景色の良い所が多いなと思いました。私は写真を趣味としていますが、景色で有名な町、それを売りにしている町もある中で、新冠町はそういう町と比較しても遜色はないです。馬や夕日のある風景はここにしかなく、全く知られていないことに、もったいなさを感じます。

(浅)確かに、いわゆる「映えスポット」が沢山ありますよね。新冠町は海のイメージはあったのですが、滞在してみると、縦に長い町で山の方にも魅力があると感じました。もう少しそこを強みとして推していってもいいかなと思います。あと、北海道でネックなのが冬の雪問題だと思のですが、その点で言うと積雪が少なく、北海道民からは、非常に過ごしやすく、北海道民から見ても、大きな強みだなと思います。

(平)弱みとしては、どうしようもない事になるんですが、日高地方の国道をあまり通らないという事ですかね。その町自体に用が無くても目的の地に行くまでに通過する町って道内に沢山あるじゃないですか。ここら辺は目的が無いと通ることがないので、そこが一番の弱さだと思います。その分通るたびに、新鮮さはあるんですが。

(浅)これを逆手にとって考えると、日高の場合は国道一本道となっていて、例えば、えりもの方まで行く用事ができれば用が無くても通過する事になるじゃないですか。僕が知らないだけで既にやっているのかもしれないですが、日高管内七町全体で連携して、各町の様々なイベントや魅力を見える形でPRしていく事も重要だと思います。



Q 今後、新冠町の「ワーケーション事業」に必要な「取り入れるべき」助成等がありますか？

A 『受け入れる』も『もてなす』ではなく来る人を、どんどん利用するべき。

(平)ワーケーションは、二泊三日程度であれば自費でも行ける気はしますが、これが一、二週間となると、補助が無いと難しいと思います。ただ、こういう補助制度は、町が一方的に負担し続ける形になってしまっていると、間違った形で続きます。そこに、独自のサステナブルな仕掛けがあるといいですね。

(浅)今回、参加予定のデザイン関係の方が、町発行の広告物に対してデザインに係るフィードバックの講話をするというので、すごくいい話だなと思います。地元職員に対して、ギブ&テイクが確立できていて、一宿一飯の恩義でないですが、技術やノウハウを町に落として行ってもらおう形は非常に革新的だと思っています。町の求めに応えることを前提に、宿泊料は半額にする等といった形で助成していくのは如何でしょうか？ 属人的な地域課題について力になる事があるかもしれないです。新冠でワーケーションをする理由にもなっていて、人を呼び込めるかなと思います。

(平)例えば、ピーマンの収穫を手伝うと二泊できるとか、そういう地域密着型の制度があると私も利用したいなと思います。私も収穫体験は、一般の方にとって経験がないので、やってみたいものなんです。

(浅)道内外に滞在先が数多くある中で、よっぽどの理由が無い限りリピーターは来ないと思いますが、確かに、地域の方と繋がりが生まれ、さらに、ここでしか出来ない貴重な体験ができるワーケーション制度があれば、参加者にとっても、新冠への訪問がリピーター化され、リピーターという位置づけになる可能性がありますね。

町も「受け入れる」も「もてなす」という固定した考えだけではなくて、来る人間をどんどん利用する姿勢でいいんじゃないかなと思います。

新冠町リモートワーク・ワーケーション実証試験事業

Meeting to exchange opinions



↑校長先生、教頭先生との挨拶
現在、朝日小学校は最終年度の学校運営をしています。
本事業期間中は、学校見学に対してご協力をいただきました。
後藤校長、富樫教頭ありがとうございました。



→↓教室の他、体育館、家庭科室、理科室、屋外ではグラウンドや『朝日の森』を見学し、朝日小学校廃校後の施設利活用の可能性を探る。



浅利 圭一郎 さん



ハーモニクス「harmonics」HP

平原 貢 さん



NTT東日本 公式HP

(平)レ・コード館のリスニングブースを見せていただきましたが、部屋の大きさ、防音も完備されており、WiFiもさえ整えれば、すぐにも用途を拡大し活用できると思います。小さなことから進めていき、新たなニーズが出てくれば対応を考えれば良いので、是非進めていただきたいと思います。

(平)私は今の時代、『停滞』はもう『衰退』を意味していると感じています。特に公務員の皆さんは常に百点を求められているとお察ししますが、それがスピード感の遅さと停滞を招いている要因だと思えます。百点じゃなくても良くて、二十点でもいいから、とにかくやってみること、そして様々な手法で発信することが『前進』に繋がると思っています。ダメだったらその時はやめれば良いだけです。

(浅)防音については、私も課題があると思います。レコードの町の宿ということで、クラシックなどの音楽が廊下に流れているのはとても良いと思うんですが、逆に室内の声も聞こえているんじゃないかという不安は感じました。

(浅)朝日小学校は、地域住民の方のために一定程度の利用方針が決まっていると伺ったので、もちろん、そこは踏まえつつ、かつ小学校っぽさも残したままの中でも、『朝日の森』のポテンシャルは高いと感じます。ハルニレの木にハンモックをかけたければ魅力的になりますし、インフルエンサー等に働きかけて発信していくのも良い手法かと思えます。自治体はユーザーや、インフルエンサーを敬遠する傾向がありますが、そういったコンテンツを活かして、広くアピールしていけば、刺さる人は多いと思いますね。

(平)部屋ではゆっくり過ごしていただき、仕事をできる別の場所を設けることで、切り分けるのもいいかもしれませんね。

(平)アピールの仕方はいくらでもあると思いますが、出来るだけお金をかけずにしていきたいですね。

(浅)私は、客室に関しては蛍光灯照明にしてしまおうと、無機的というか、所帯じみた雰囲気になっちゃおうと、客室は非日常を味わってくださーいというコンセプトで良いと思います。ただ、全体的に暗いというのは平原さんの仰る通りだと思うので、スタンドライト等の照明貸出があると助かりますね。

(浅)そうですね。苦小牧から日高方面に来て、ここを中継して、天馬街道から十勝に向かうには、本当にちょうどいいと思います。

(平)ワーケーションで滞在する部屋という観点で言えば、どこのホテルも共通しますが、部屋が薄暗く感じます。蛍光灯の照明があると良いかもしれませんね。また、リモートワークで必要不可欠なのが、ウェブ会議ですが、その際には、どうしても音漏れが気になってしまっているので、そこは何らかの対策が必要になってくると思います。

(平)爆発的に流入人口が増えると言われるとそうではないとは思いますが、こういった小学校は何か手を加えるのではなく、そのままの状態にして、『小学校で〇〇ができる』という形にしても喜ぶ人やニーズはあると思うんです。私は『施設をどう変えていくか』というより、『どのよう周知・発信していくか』の方が重要になってくると思います。沖縄県の大赤字ホテルを、SNSの力で復活させた若者の事例は、出来るだけ予算をかけずに有効活用したい新冠町の意向とリンクしていると思います。その若者役を誰にやってもらうかの判断や選考は町の重要な選択になってくると思います。

Q ワーケーション施設としての拠点化に向けて、気が付いた点やハード的整備の必要性は？
A 『休暇』と『仕事』で部屋に対するニーズに違いがある。既存施設を活用できれば小さなことからでもスタートするべき。

Q 朝日小学校廃校後の利活用に向けたアイデアは？
A 用途を根本的に変えるのではなく、あえて『小学校』と言う形を活かした活用法を提案。『停滞』は『衰退』。百点は取らなくても良いので、二十点でもやってみる。その代わり周知や発信は徹底するべき。

編集後記

今回はリモートワークや働き方改革のトップランナーとも言えるNTT東日本の平原さんと、元記者として、今回の滞在中、常に歩きながら様々な施設や地域を見て回った浅利さんの意見内容を見出せない朝日小学校の活用提案は、新たな視点からの考えとして大変驚く内容でありました。仕事柄、自治体に入り込む機会の多い平原さんは行政の様々な事情も把握した上で、チャレンジが必要な今後の自治体の在り方についての提案や、類似事例の情報提供などが、わがまち新冠の応援を兼ねてご協力いただいたほか、浅利さんは、今回の新冠町の取組みや趣旨を深く理解していただき、さらに町の課題を踏まえ、今後の新冠町について沢山のお話しの機会をいただきました。今回の縁と繋がりを、今後も継続していただけると幸いです。